

文化交流史		講義	教授 中村 光一
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200104

1. 授業のねらい・概要

「島国日本」という言葉から、我々は前近代においては、日本が政治的あるいは文化的に他国から孤立した存在であったと考えがちである。しかし、鎖国体制下の時代においてできえ、わが国が中国・朝鮮をはじめ東アジアの各国と密接な結びつきを持ち、それらの国々からの強い影響を受けてきたことを見落としてはならないだろう。また、世界的には「大航海時代」と呼ばれる時代には、遠くスペイン・ポルトガル・オランダ等の国々とも交流があったことも忘れてはならない。本講義では、主に前近代を対象として、列島へのヒトの移動をプロローグとし、そこから通史をたどる形を取りながら日本に対する諸外国からの文化の伝播、あるいは逆にそれらの国々への日本文化の与えた影響について考えていきたいと思う。

基本的には1コマで一つの事例を取り上げる形で講義を進める予定である。なお、半期という期間の問題もあり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 東アジア世界の中の日本	9. 勘合貿易と室町文化
2. 「日本人」はどこから来たか	10. キリスト教の伝来と南蛮文化
3. 「魏志倭人伝」は語る	11. 鎖国体制と蘭学の時代
4. 仏教の伝来と日本人の宗教観	12. 琉球王国と薩摩藩
5. 遣唐使と正倉院の文物	13. 北方との交流
6. 朝鮮・渤海との交流	14. 開国と維新
7. 上野三碑と渡来人の入植	15. 近現代への展望—まとめにかえて
8. 平氏政権と日宋貿易	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「日本における文化交流の歴史」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していただくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。